

## 第33回宇宙安全保障部会 議事要旨

### 1. 日時

令和元年10月9日（水） 10:30～12:00

### 2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

### 3. 出席者

#### (1) 委員

青木部会長、片岡部会長代理、遠藤委員、折木委員、久保委員、白坂委員、鈴木委員、名和委員

#### (2) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 松尾事務局長、行松審議官、中里参事官、星野参事官、吉田参事官、森参事官、鈴木参事官、滝澤参事官

#### (3) 関係省庁等

内閣官房 国家安全保障局 伊藤内閣審議官

内閣官房 内閣情報調査室 内閣衛星情報センター 管理部 中川調査官

総務省 国際戦略局 宇宙通信政策課 森下課長

外務省 総合外交政策局 宇宙・海洋安全保障政策室 山地室長

文部科学省 研究開発局 宇宙開発利用課 原田企画官

気象庁 観測部 気象衛星課 横田課長

海上保安庁 警備救難部 警備情報課 寺口課長補佐

海上保安庁 海洋情報部 海洋情報課 吉田室長

防衛省 防衛政策局 戦略企画課 松本課長

防衛省 防衛研究所 政策研究部 福島主任研究官

### 4. 議事要旨（○：質問・意見等 ●：回答）

#### (1) 令和2年度概算要求の状況について

資料1-1から資料1-6に基づく事務局・各省庁からの説明のあと、次のような議論が行われた。

○文部科学省が要求している「スペースデブリ対策技術の研究」と「デブリ除去技術の実証ミッションの開発」の関係は何か。

●前者については、将来のスペースデブリ対策に資する基礎的、基盤的技術の研究であり、後者については、大型デブリ除去を実証していくプロジェクト型研究開発である。

○デブリ除去の方法に関し、JAXAが以前から研究している「テザー方式」をやめる方向なのか。

●テザー方式をやめるわけではなく、現在、提案されている様々な方法を含め、デブリ除去技術の実証ミッションの開発を進めていきたい。テザー方式については、JAXAのJ-SPARC事業でも支援している。

(2) 安全保障分野における米国の宇宙政策について

資料2に基づく説明のあと、以下のような議論が行われた。

- 今後、米国と SSA 情報を共有することとなった場合、秘密保護をどうするかが課題となる。
- 日米共同でオペレーションを実施することを考慮すると、受け皿となる日本国内の組織の在り方について検討する必要がある。

(3) 基本政策部会における検討について

資料3-1から3-2に基づく説明のあと、次のような議論が行われた。

- ライフサイクルの短縮化に対応するためにオープンアーキテクチャを採用することは、脆弱性の問題とトレードオフの関係にあるので、今後脆弱性の低下が課題となる。
- 予算の制約の問題から、日本として取り組む事項には優先順位をつける必要がある中、準天頂衛星はとても重要な領域になる。
- 今後、宇宙基本計画を新たな枠組で考える際に、宇宙安全保障について、軍事的な側面だけの問題ではなく、国民生活に関係することを意識してコンセプトを整理する方が良い。

以上